



“子供を守る”とは？

校長 羽田野庸史

先生がいれば真面目に学習に向かうが、先生がいな
いとついふざけてしまう。家庭では親の思っているよ
うな子供なのに、外では、勝手なことをしてしまう。
このような話は、実際によく見聞きする話です。

子供は、往々にして学校や外で見せる顔と家庭で見
せる顔とが違うということがあります。家庭では、親
の言うことをよくきくいい子なのに、学校生活や下校
後の遊びの中では、友達の手前、違う側面を見せる
ということは、決して珍しいことではありません。しか
し、どちらも本当の子供の姿です。

「親」は、漢字の成り立ちから「木」の上に「立」っ
て「見」ているから「親」だといひます。木の上に立っ
て子供を見るように、高い位置から子供を見守り、今、
子供が誰と仲が良いのか、何に夢中なのか、どんなこと
に悩んでいるのかを知っていることが大切です。そうや
って、子供を理解していれば、子供の言っていることが
本当のことなのか、自分に都合のいいことを言っている
のかということも見えてきます。そして、子供が自分の
力では解決できない大きな壁にぶつかった時は、木から
降りて来て、子供に手を差し伸べてあげます。子供の代
わりをするのではなく、子供が自分の力で壁を乗り越え
、前に進むことができるように後押ししてあげることが
大切です。

木の上に立って見ているわけですから、ちょっと転ん
だだけとか、些細なトラブルぐらいでは、いちいち木か
ら降りて来るわけにはいきません。子供が目の中の課題
を乗り越えていく力を付ける意味でも、子供が自分一人
で乗り越えられる課題は、子供が自分の力で乗り越えて
いくのを見守る勇気も大切です。

先生も親も子供の生涯にわたってずっと寄り添って
いくことができるのなら、先生や親の言うことを聞く
ように育て、子供が困っているときには代わりになっ
てあげればいいわけですが、やがて子供は大きくなっ
て一人で生きていかなければなりません。そのときに
子供が困らないだけの力を先生や親は、子供に付けて
おいてあげなければなりません。

子供たちは、集団の場で生活しています。その集団は、
家族、保育園・幼稚園、小学校、中学校、…と徐々に
大きくなっていきます。その大きくなっていく集団に
子供が適応して、自分らしく生きていける力を付けて
あげることが、本当の意味での“子供を守る”ことと
つながるのだと思います。

12月 行事予定

日	曜	行事等	放課後 遊び
1	火	安全指導 個人面談②(5時間授業) 移動教室前日検診(6年)	なし
2	水	移動教室(6年) 4時間授業(2-2以外) 研究授業(2-2) 給食試食会(1-1)	なし
3	木	移動教室(6年) ユニセフ集会 人権週間(~11/9) 個人面談③(5時間授業) 給食試食会(1-2)	なし
4	金	移動教室(6年) 個人面談④(5時間授業) 韓国教育使節団来校	なし
5	土	日本文化の時間 町探検(2年)	なし
6	日		
7	月	委員会活動 ユニセフ募金(~12/11) 子どもサミット	6年
8	火	社会科見学(5年) 個人面談⑤(5時間授業)	なし
9	水	研究授業(1-1) 4時間授業(1-1以外)	なし
10	木		4年
11	金		3年
12	土		
13	日		
14	月	クラブ活動 音楽鑑賞教室(5年)	6年
15	火		5年
16	水	地域清掃(16年) 避難訓練(集団下校)	なし
17	木	児童集会	4年
18	金		2年
19	土	日本文化の時間	なし
20	日		
21	月		3年
22	火	六本木中学校見学(6年)	5年
23	水	天皇誕生日	
24	木	音楽朝会	4年
25	金	終業式 大掃除 給食終	なし
26	土	冬季休業日(~1/7)	
27	日		
28	月		
29	火		
30	水		
31	木		

12月の生活目標

生活指導担当 三根 博喜

学校をきれいにしよう

ふだんよりていねいに掃除をして、すがすがしい気持ち
でこの1年を締めくくりましょう。



さわやかな秋空の下で～連合運動会を終えて～

6年1組担任 上遠野 美由紀

10月のさわやかな空が青く晴れ渡る中、夢の島陸上競技場で港区18校の6年生が一堂に会して、連合運動会が開催されました。

今年は、校舎の工事のため校庭が狭く、思うように練習ができない中で、1か月近く練習を重ねました。校外のグラウンドへ練習をしに行ったこともありました。

そのような中で迎えた本番では、どの子も自分の力を出し切り、閉会式の成績発表で4人の子が港区全体の3位までに入り、電光掲示板に東町の名が載りました。

環境がどうであれ、できることに精一杯取り組むことの大切さを改めて感じました。

6年生は卒業までの折り返し地点を過ぎました。学習に、行事に一生懸命取り組んでいきます。



3年生について

3年1組担任 三根 博喜

3年2組担任 山地 千登香

1学期は、港区探検に出かけ、学校の周辺や自分たちが住んでいる港区にはどんな施設や特徴があるのかを学習してきました。まず総合支所の見学に行き、港区の区役所の施設で働く人々の様子を学習しました。次に東京タワーの展望台から見渡した町の様子を東西南北で区切り、どの方向に何が見えたかを整理し、見学しました。一人一人が授業や探検を通して学んだことを新聞にまとめ、振り返ることができました。

2学期の、体育の小型ハードル走では、一定のリズムやいろいろなリズムでハードルを走り越えることに挑戦しました。より速く、ハードルを走り越えるには、どのようなリズムがいいのか、チームごとに活発に意見を出し合い、取り組むことができました。話し合いの姿勢に成長を感じることができました。

もうすぐ学期末です。子供たち一人一人が、達成感をもって学期を終えられるように、声をかけて励ましていきたいと思います。

学習発表会～学芸会～を終えて

学習発表会委員長 畠中 圭一

11月13・14日は学習発表会“学芸会”でした。今年はすべての学年が劇を演じ、各学年とも特長のある表現で一生懸命に取り組みました。児童数増加に伴って、「出演学年保護者優先席」の設置など、一昨年からの変更も多い中、保護者の皆様のご協力をいただき成功を収めることができました。

1・2年生は「おたまじゃくしの101ちゃん」と「アイウエオリババ」で歌を交えながらの可愛らしい演技でした。3・4年生はミュージカル風の「オズの魔法使い」と中国の有名な小説「西遊記」を堂々と演じました。5・6年生はオリジナル劇「一粒の米にまつわる物語」と太宰治の名作「走れメロス」で、さすが高学年という貫録ある演技を見せてくれました。児童鑑賞日では、6年生の演技に感動して泣いている1年生の子がいたのがとても印象的でした。

この経験によって子供たちが培った一体感や表現力をさらに伸ばしていけるよう、今後の指導に力を入れていきます。

国際科について

国際科主任 黒江 綾菜

港区立小学校では、平成14年度から、国際理解教育の一環として英語活動を実施しています。平成19年度から、教育課程に「国際科」を位置付けるとともに外国人講師（NT：ネイティブティーチャー）を各校に配置し、英語によるコミュニケーション能力を育てています。

また、本校では、4年前から国際学級の実態を考え、「習熟度別学習」を始めました。今年度は、1年から4年は2学級を3クラスに分けNTとESTによる授業を行っています。5・6年は1学級を2つに分けてNTによる授業を実施しています。

習熟度別学習を実施することで、子供たち一人一人が自分に合ったクラスで自信をもって英語を使ってみようという気持ちももてるようになってきています。担任は、授業の最初と最後に、今日のめあてやまとめを確認し、児童の気持ちに寄り添いながら授業を進めています。今後も、担任とNTやESTとの連携を密にしてよりよい指導を行っています。